共産党地震募金「着服デマ」の深層

繰り返される疑念の正体と、透明性の欠如を徹底検証する

公開情報を基にした
構造的課題の分析レポート

Gemini Notebook

災害のたびに繰り返される「SNSの疑念」

これは単なる誹謗中傷なのか、それとも「火のない所に煙は立たない」のか。
過去の事実から、不信感の根本原因を探る。

Gemini Notebook

日本共産党の公式見解：「着服は一切ない」

100%

Verified Green

- **着服の否定：**「募金を着服したことなど一切ありません」
- **全額送付：**「被災自治体や関係する公的機関に、全額を届けています」
- **経費の党負担：**振込手数料や移動費などの経費は党が負担し、政治資金とは厳密に区別。

※2024年1月 能登半島地震時の党公式Xアカウント及び公式サイトの主張より。

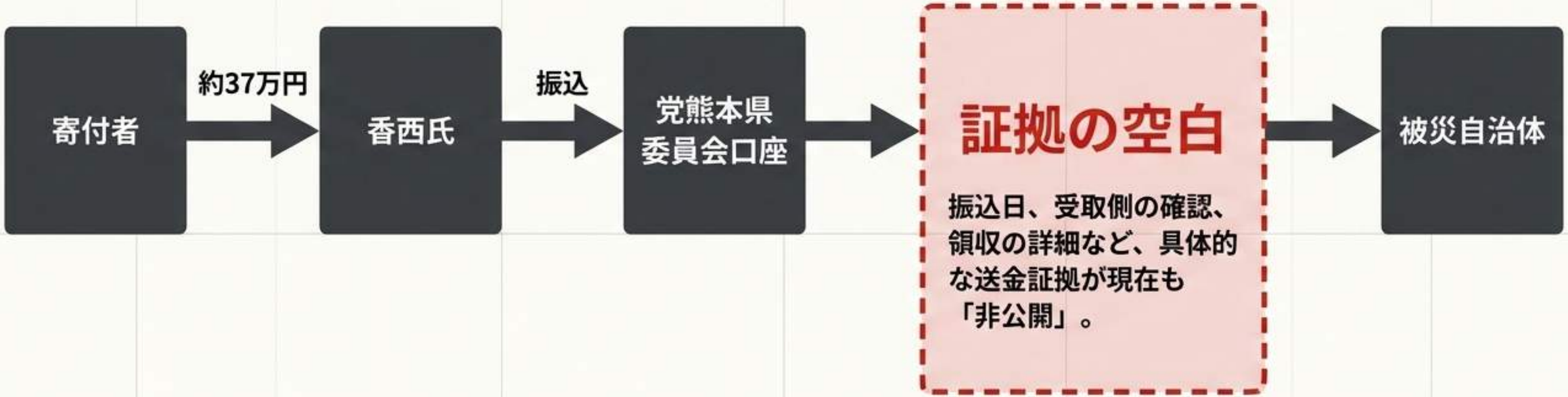
Gemini Notebook

疑念の原点：2016年熊本地震「香西案件」

時期：	2016年4月16日
集まった金額：	約37万円
問題点：	党自身が「方針からの逸脱」と認めた、唯一の明確な「同じ袋で混ぜた」ケース。
結末：	当時の小池晃書記局長は「こういうやり方はよくない」「被災地への募金はそれに限って集めるのが当然」と不適切を認め謝罪。

Gemini Notebook

消えない疑念：検証不可能な「37万円の行方」

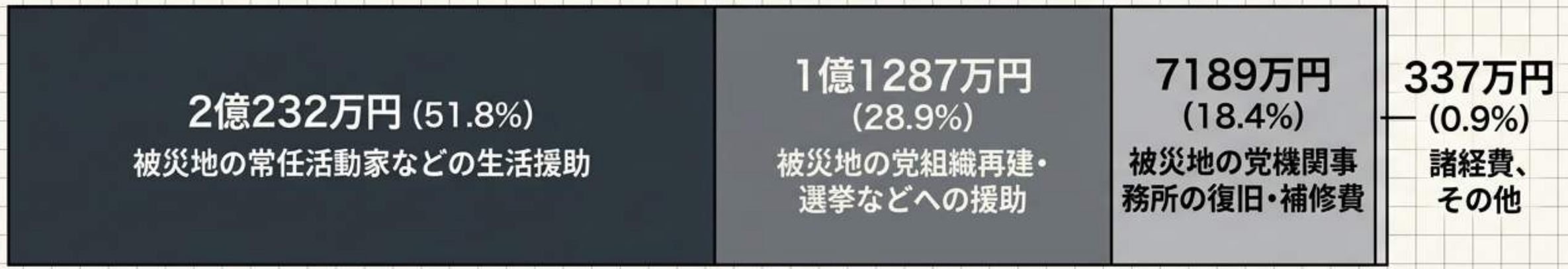


党は「全額を被災地に送った」と主張するが、外部から確認できる客観的証拠（エビデンス）は存在せず、完全に「自己申告」の域を出ていない。

Gemini Notebook

並行して行われた「被災地党活動支援募金」の実態

東日本大震災後、純粋な震災救援とは「別枠」で集められた
党活動資金（累計約3億9045万円 / 2016年3月時点）。



党は「厳密に区別している」と主張するが、巨額の党組織維持費を震災直後に並行して集める行為が、外部からの不信感を増幅させた。

Gemini Notebook

構造的欠陥：複数目的で「共用」される口座

党の主張：

「犯罪対策で新規口座が増やせない」

「振込時に使途を記入してもらう」

実際の脆弱性：

記入漏れや未記載の振込の処理方法、残高管理の詳細が非公開。

常設口座で複数の目的を受け付ける以上、
「全額をこの災害に」という主張の厳密性は構造上担保しきれない。

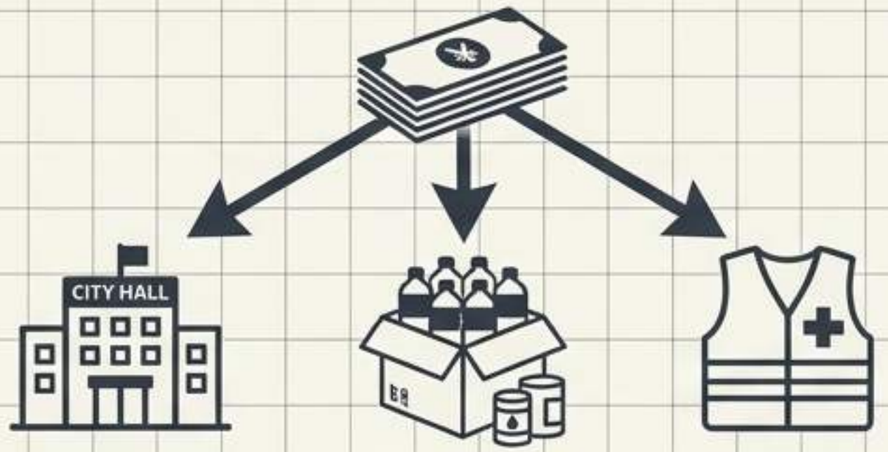
Gemini Notebook

「全額被災地に」の言葉と実態のズレ

寄付者の認識

「全額が自治体の義援金口座に入り、
直接被災者に現金配分される」

過去の実績



東日本大震災時の救援募金では、党が物資購入やボランティア活動費に充てた部分がある（党公表資料より）。

党はこれを「正当な被災者支援」とし「経費は党負担」と主張する。
しかし、寄付金が「中抜き」されたわけではないにせよ、
「全額が現金として自治体に届く」という直感的な理解とは乖離がある。

Gemini Notebook

検証マトリックス：党の主張 vs 公開事実

党の主張	公開事実	検証ステータス
「着服は一切ない」	意図的な着服の証拠は発見されていない。	⚠️ 証拠なし（ただし逆の証明もなし）
「全額を被災自治体等へ」	過去の香西案件（37万円）の具体的な送金記録は非公開。	❌ 外部検証不可能
「別目的とは混ぜていない」	2016年に政治資金と混同した事事実があり、党も認めて謝罪。	❌ 過去に逸脱あり
「専用口座で管理」	能登・ガザ・台風支援で同一口座を使い回している。	⚠️ 構造的な混同リスクあり

Gemini Notebook

結論：問題の本質は「透明性の負債」である

（過去の不適切事案）

＋

（検証不可能な管理体制）

＝

終わらない不信感

着服の確たる証拠はない。しかし、「全額を透明に届けている」という証明もまた存在しない。

「着服はデマ」という反論だけでは、口座共用や過去の混同といった正当な疑念（構造的欠陥）に対する答えなっていない。

詳細な入出金記録の継続的な公開（オープンデータ化）を行わない限り、災害のたびにこの不信感のループは繰り返される。

Gemini Notebook

あなたの善意を確実に届けるために

寄付を考える時

直接支援

【推奨】自治体・日本赤十字社への直接寄付。中抜きの余地がなく、100%の透明性が担保される最も確実な方法。

経由支援

政治団体やプラットフォームを経由する場合、過去の集金方法や現在の透明性（詳細な送金記録の公開有無）を自ら確認する必要がある。

災害時、どこかのプラットフォームで善意が迷子になるリスクを避けるため、「公式からの募集には公式へ直接寄付する」ことが最大の防衛策となる。

Gemini Notebook